

平成14年7月10日

**サッポロビール株式会社**  
**課税移出(引取)数量報告 平成14年上期分**

サッポロビール(株) 広報・IR室

下記の通りご連絡申し上げますので、よろしく御取計ください。

単位：KL、千函、%

<上期計>		本年キロリットル	本年大瓶換算	前年比	前年キロリットル	前年大瓶換算
ビール	国産	266,794	21,074	▲ 11.8	302,439	23,889
	輸入	2,068	163	53.5	1,347	106
	小計	268,863	21,237	▲ 11.5	303,787	23,996
発泡酒	国産	194,538	15,366	2.4	189,907	15,001
	輸入	0	0		0	0
	小計	194,538	15,366	2.4	189,907	15,001
ビール+発泡酒 合計		463,401	36,604	▲ 6.1	493,694	38,996

\*国産は課税移出、輸入は課税引取り。大瓶換算は1函=12.66%。  
 \*全ての数は表示の1桁下を四捨五入して算出。

\*前年比は1函単位の実数から算出しているため、千函・万函単位の本表の表示数からの逆算とは異なることがある。

<ブランド別販売状況>

単位：万函、%

	<上期>			<累計>		
	本年函数	前年比	前年函数	本年函数	前年比	前年函数
黒ラベル	1,686	▲ 12.8	1,933	1,686	▲ 12.8	1,933
エビス	342	▲ 6.0	364	342	▲ 6.0	364
ギネス	14	56.1	9	14	56.1	9
樽生仕立	145		0	145		0
きりっと	96		0	96		0
ファインガー	256		0	256		0
生搾り	994	22.3	813	994	22.3	813

<トピックス>

- 市場動向 : 発泡酒比率は39%弱(前年同期32.2%)と推定されます。この発泡酒の急成長も、ビールの落込みをカバーできず、前年6月の反動を勘案しても、市場全体は微減傾向といえます。
- 当社全般 : 当社ビールは、昨年トント(15.3%減)と比較して下げ幅を縮めており、今上半期はシェアアップ達成と推測しています。発泡酒は1月発売「ファインガー」は予想外でしたが、5月「きりっと新・辛口<生>」と6月「樽生仕立」が計画を超える出荷を果たし、上半期での数量増を達成しました。この結果、トータルでは若干の数量減となりましたが、生搾りと樽生仕立を核に下半期の反攻のためのブランドフォーメーションを整えられましたので、今後にご期待いただきたいと思います。
- 黒ラベル : 昨年水準(13.3%減)から下げ幅を縮め、ほぼビール総需要並で推移しています。TVCM新シリーズが好評で、ロングセラーとして着実なブランド構築を進めています。
- エビス : 独自のブランド価値が認められ引続きビール総需要を大きく上回っています。エビスが年間前年比でビール総需要を上回るのは平成5年以来9年連続です。上半期に大量リードが確定しましたので、このまま10年連続シェアアップを達成する公算が強くなってきました。
- ギネス : 本年2月以來、毎月5割増のペースで急増中です。アイリッシュパブ展開、TV番組での紹介、そしてW杯外国人客による大量消費があり、それに刺激を受けて日本人愛飲者も急増中です。
- 生搾り : 当社史上最高の初年度出荷数量(2109万函)を記録した北海道生搾りの二年目は、上半期を終え着実に市場定着していると総括できます。低価格攻勢に対しても大崩れせずブランド力を見せました。6月21日からは新価格となり、価格差の無い中で真っ向から品質勝負を挑んでいきます。
- ファインガー : トライアル喚起の大事な時期に市場軟化の影響を受け、厳しい状況が続いています。
- きりっと : きりっと新・辛口<生>はTVCM等を削減して低価格を実現。5月からCVSを中心に順調に滑り出しました。6月21日から新価格で一層の市場定着を目指します。
- 樽生仕立 : 計画(140万函)を上回る順調なスタートです。ディンプル缶蓋採用等の明確な差別性を強く訴求し、価格から品質へと戦いのフェーズを変えていきます。

以上